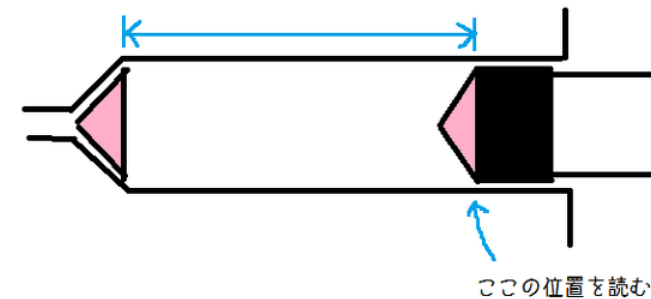


3-4. 解凍 ～ 共通の解凍手順 ～

- ・ 冷蔵庫の場合は3時間以内、室温の場合は30分以内に解凍されます
- ・ いずれの場合も解凍後の保存期間にご注意ください

手順	イメージ
2～8℃の冷蔵庫において、3時間以内に解凍されます ※ 個々のバイアルをバイアル箱から取り出して解凍する場合、解凍時間は短くなります ※ <u>解凍及び希釈を5日間以内</u>に行ってください ※ 冷蔵庫に移した日時を各バイアルやトレーに明記するなどし、冷蔵保存期間を適切に管理してください ※ 解凍後は再冷凍しないでください ※ 室内照明による曝露を最小限に抑えてください ※ 直射日光および紫外線が当たらない場所で解凍してください ※ 希釈後は2-30℃で保管し6時間以内に接種してください。	
(お急ぎの場合) 室温で30分以内に解凍することもできます ※ <u>解凍及び希釈を2時間以内</u>に行ってください ※ 室内照明による曝露を最小限に抑えてください ※ 直射日光および紫外線が当たらない場所で解凍してください ※ 解凍後は、再冷凍しないでください ※ 解凍後から希釈までの間に冷蔵庫での保存は行わないでください	

3-4. 希釈 ～ 希釈手順（1/2）～



- ・ ワクチンを日局生理食塩液で希釈し、希釈した日時をバイアルラベルに記録してください
- ・ 希釈の作業は医療用手袋を着用し、直射日光や紫外線の当たらない場所で行ってください

手順	イメージ	手順	イメージ
1. （冷蔵庫で解凍した場合）バイアルを冷蔵庫から取り出し、30分室温下に置き、室温に戻してください ※室温に戻した後、手順2までの間に冷蔵庫での保存は行わないでください		4. 針を抜く前に、空になった希釈用シリンジに空気を1.8mL吸引してください ※無菌操作を徹底するため、1つの日局生理食塩液のプラスチックアンプルで、2つ以上のワクチンバイアルを希釈せず、余った日局生理食塩液は廃棄してください	
2. バイアルを上下にゆっくりと10回反転（転倒混和）させてください ※室温に戻した解凍後のバイアルは2時間以内に希釈してください ※バイアルは激しく振らないでください		5. 日局生理食塩液を注入したバイアルを上下にゆっくりと、白色の均一な液になるまで10回程度反転（転倒混和）させてください ※バイアルは激しく振らないでください ※希釈後は白色の液となります。液中に粒子や変色がないことを目視確認してください。液中に粒子や変色が認められる場合には使用しないでください	
3. 日局生理食塩液のプラスチックアンプルとワクチンバイアルをアルコール綿で清拭し、希釈用シリンジに1.8mLの日局生理食塩液を吸引し、バイアル内に注入してください ※希釈用注射針は21Gもしくは21Gよりも細いものが推奨です（他の規格については、医療機関側の判断によりご使用ください）		6. 希釈した日時をバイアルのラベルに記録し、2～30℃で保存してください ※再冷凍せず6時間以内に接種してください ※保存する際は室内照明による曝露を最小限に抑え、直射日光および紫外線が当たらないようにしてください ※冷蔵庫に保存した場合は使用前に常温に戻してください ※接種シールとバイアルのロット番号が一致していることを確認し保存してください	

3-4. 希釈 ～ 希釈手順（2/2）～

- ・ 希釈したバイアルから接種量0.3mLの接種液を接種用のシリンジに吸引してください

手順	イメージ
7. 接種用の注射針及びシリンジを準備してください ※ 国から提供された注射針・シリンジを使用してください	
8. 希釈したバイアルから接種量0.3mLの接種液を接種用のシリンジに吸引してください ※ 粒子及び変色がないことを目視で確認してください。粒子及び変色が認められる場合は使用しないでください ※ 希釈後の液は6回接種分（1回0.3mL）有する。デッドボリュームの少ない注射針・シリンジを使用した場合、6 回分を採取することができます。標準的な注射針・シリンジ等を使用した場合、6 回目の接種分を採取できないことがあります。1回0.3mLを採取できない場合、残量は廃棄してください ※ 接種液の容量に余剰がないため、注射針を刺した状態で余分な接種液を戻す、空気を抜くなどの操作を行ってください	
9. 接種液を吸引したシリンジを医療用バット等の上に置いてください	

製品情報（添付文書等）は[こちら](#)

接種運営_事前準備



内容物の紹介(2分54秒)



配送箱での保管(4分36秒)



超低温冷凍庫での保管(3分23秒)

接種運営_接種日の動き



溶解・希釈方法(5分37秒)



ファイザー公式



福岡大学病院
公式チャンネル



厚生労働省作成・
監修動画*



市立三次中央病院監修



千葉大学病院
公式チャンネル

新型コロナワクチン調製講習会（2021.4/25）（4/26 追記）

確認事項・調製のコツ

1. 希釈に用いるシリンジ・針・生食は 1V 毎の使い捨てとする。（細菌汚染を防ぐため）
2. 希釈用生食を抜く時は 2mL 位採取してから、気泡をはじいて抜き、液面を針の付け根位に持っていきカップ等に捨てる。（生食バイアルに戻すのは面倒なのでプラコップか紙コップを持って行った方が良いかも・・・）
- 希釈用生食 1.8mL は 1 回押切でいれる。その際、ワクチンが逆流しないよう針は半分くらい刺した状態の方が良い。針先に残った生食がシリンジ内に戻ってきても再度ポンピングしない。
3. 希釈用の針は垂直に刺し、できるだけ壁面に沿うように入れる。（泡立てないため）
ゆっくり 10 回混和後異物がないことを確認し、バイアルに希釈した日時を記入。
4. シリンジの先端・針が調製台や手指（手袋）に触れたら不潔とみなし廃棄する。
5. 針刺しをした場合は必ず申告し、そのシリンジは必ず廃棄する。止血・手洗い後新しい手袋をはめてから調整に戻る。
6. 接種用の採取時は毎回 0.3mL 程度の空気をバイアル内に送り込んだ方が、筒が安定するため採取しやすい（1 本目は入れなくてもいけますが）
7. 接種用の泡を取り除くときあまり強く爪ではじかない。（強い振動で RNA がこわれるため）
8. LDS 針（U-デッドスペース：6 筒/1V）はしっかりシリンジに装着する（少しひねるように） こと。
キャップと一緒に針が取れたため廃棄というトラブルが多いです。高齢者接種で配布される針は 5 筒/1V 用の死腔の大きい針に戻るようです。
9. ワクチンの保管は遮光です。冷蔵庫から取り出し室温に戻す（30 分）とき、接種用に 5 or 6 本抜いたものにはアルミホイル・遮光バッグ等で遮光してください。（各会場にアルミホイルあり）。
10. 接種用 5 or 6 本と採取したバイアルをトレーに入れ（時間の確認のため）接種会場に運び入れる。
11. 既定の本数抜けなかった容量不足シリンジおよび会場からキャップ抜け・針抜け・落下等で返品されたシリンジは廃棄せずに保管しておき本数をカウントしておく。（追記）

監査について（案）

1. 接種用シリンジの液量誤差は $0.3\text{mL} \pm 0.01\text{mL}$ 程度とする
2. ゴムに付着した細かい泡（直径 1mm 以下程度）は可とするが、上部の泡（針に近い方）特に死腔内の泡は除去する
3. 希釈用 1.8mL を採取した時、および接種用 0.3mL を 5 or 6 本採取した時にダブルチェックを行うのが望ましい。